

バイオマスの環づくり交付金(ハード事業)

九州農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体	事業内容	評価年度	事業計画目標	目標達成状況		事業実施主体	総合評価		備考
							実績値	達成状況		都道府県	農政局等	
福岡県	立花町	立花	(株)主計物産	地域モデルの実証: 筍皮を原料とした堆肥化施設の整備	H20	筍皮処理量:141t/年 堆肥生産量:24t/年	141t/年 15t/年	100% 62%	発生量は目標値に対し100%を達成した。変換量については、堆肥の製造過程で乾燥しすぎて製造したため目標を下回る15tとなった。今後は、切り返しや散水等により適切な品質管理を行うことで、100%を目指していく。	堆肥の品質は、切り返しの方法・回数などの影響を受けるが、発酵を十分促進させる条件(水分、温度等)を整えることが重要である。現在、良質な堆肥を製造するための実証に取り組んでいる段階であり、今後はその結果を踏まえて、施用する作物に応じた品質を確保することを目指して改善されていくと思われる。	発生量全量を使用して堆肥を生産されていること、生産された堆肥が、水分調整の結果、目標で設定している含水率50%を下回ったため、重量で目標としている24tを下回る15tとなっていることから、今後、堆肥製造技術の向上を図り、品質の確保をすることで、目標の達成が見込まれる。	
大分県	日田市	大山	大分大山町農業協同組合	地域モデルの実証: キノコ廃培地等を原料とした堆肥化施設の整備	H20	受入量:10,000m ³ /年 堆肥生産量:4,128m ³ /年 堆肥販売量:4,128m ³ /年	8,683m ³ /年 3,471m ³ /年 2,696m ³ /年	86.8% 84.1% 65.3%	キノコ栽培に利用した廃培地を活用し、有機質堆肥を利用した土づくりによる農業の振興を図るもので、計画に対して受入量86.8%生産量が84.1%販売量が65.3%を達成している。有機質堆肥を利用することが、良質な農産物生産にどう効果をもたらすのか、わかりやすく分析結果を示すことで、利用率向上につながるようしていきたい。	受入量で86.8%販売量で65.3%の達成状況となっている。有機質堆肥で、地域農業の発展に貢献している。地区の農家へわかりやすく有機質堆肥の効果を示し、普及に努めることとしており、今後、更に、利用率向上が期待できる。	持ち込みされる全量を堆肥化することが、できているため、今後、更に利用率の向上を図ることで、目標の達成が見込まれる。	
宮崎県	西都市	西都	西都リサイクル協同組合	新技術等の実証: 焼酎かすの飼料化及びエタノール化施設の整備	H20	焼酎かす処理量:12,200t/年 飼料生産量:1,500t/年 エタノール生産量:30t/年	12,254t/年 1,627t/年 0.48t/年	104.4% 108.5% 1.6%	焼酎かす受入については、組合員増産計画に的確に対応していくとともに、施設の周知を図ることで組合員以外の利用も進め、受入量を増加させていく。飼料生産については、畜産用飼料の高騰により需要は旺盛であることから、生産を増やしていく。バイオエタノールについては、2重課税の問題が解決すれば製造許可の取得及び販売は可能であると考えられているが、それまでの間は活用先の開拓をより積極的に進めていく。	焼酎かす受入については、組合員増産計画に的確に対応していくとともに、施設の周知を図ることで組合員以外の利用も進め、受入量を増加させていく。飼料生産については、畜産用飼料の高騰により需要は旺盛であることから、生産を増やしていく。バイオエタノールについては、2重課税の問題が解決すれば製造許可の取得及び販売は可能であると考えられているが、それまでの間は活用先の開拓をより積極的に進めていく。	焼酎かすの処理量及び飼料生産は、目標達成できているものの、バイオエタノールについては、関連業者との協議が整わないことから、生産量が未達成となっている。バイオエタノールは、組合員の焼酎工場の消毒用アルコールとして活用するなど当面の対応も進められていることや関係者との協議も引き続き行われる予定から達成が見込まれると思われる。引き続き施設の有効活用に向けた取り組み状況を注視する必要がある。	「改善計画により改善」
鹿児島県	曾於市	曾於	大隅酒造事業協同組合	新技術等の実証: 焼酎かすの飼料化及びエタノール化施設の整備	H20	焼酎かす処理量:32,087t/年 飼料生産量:4,806t/年 エタノール生産量:258t/年	19,950t/年 3,053.9t/年 144.23t/年	62.2% 63.5% 55.9%	平成20年度は、4月～7月の飼料生産量は、91%となっている。今後、継続して焼酎かす発生量が計画を下回るようであれば、組合を構成する各酒造メーカーで計画協議を実施するなど焼酎かすの受入確保に向け、意思統一を踏ることとしている。現在は、運転管理も安定し、発生量全量の受入体制が整ったことから目標達成は可能である。	未達成であるものの、平成20年度は運転管理を適切に行い、発生する焼酎かすの全量を飼料化できるようにするとともに、関係者(酒造メーカー、飼料工場、市町村等)での検討会の際に焼酎かすの受入量と飼料生産量の計画達成に向けて指導助言を行う。	目標については、試運転、機器の調整に時間を要したことなどから、未達成となっている。今後は、施設も安定的な稼働が見込まれるとともに関係者で協議することが予定されており、目標の達成は見込まれると思われる。引き続き施設の有効活用に向けた取り組み状況を注視する必要がある。	「改善計画により改善中」
鹿児島県	いちき串木野市	いちき串木野市	西薩クリーンサンセット事業協同組合	新技術等の実証: 焼酎かすのメタン発酵及び肥料化施設の整備	H20	焼酎かす処理量:65,824t/年 蒸気生産量:12,764t/年 乾燥肥料生産量:1,099t/年 乾燥飼料原料生産量:483t/年	34,652t/年 11,423t/年 331t/年 233t/年	52.6% 89.5% 30.1% 53.2%	稼働初年度としては、立ち上げに時間を要したため、計画に対して未達成となった。昨年12月から運転状況も安定してきたこと等から、今年度は事業実施計画に記載の焼酎かす処理計画達成に向けて、現工場の計画的な処理を行うなど、安定的な操業を目指す方針である。	本施設は、いちき串木野市、日置市から発生する焼酎かすを利用し、そこから得られるエネルギーを利用し、副産物として飼料原料や肥料を生産し、販売するという地域資源の循環利用を目的とした取組である。しかし、平成19年度については、施設設備後、初年度ということもあり、施設の本格稼働に時間を要したことや、平成17・18年度の焼酎製造が多かったことから、在庫調整を各酒造メーカーが行ったこともあり、焼酎の製造量が少なく、それに伴い焼酎かすの発生量が少なくなったことが各種計画を下回ったと思われる。今年度については、これらの調整も終えたことから計画量の達成は可能である。	目標については、メタン菌を育成し、施設を安定的に稼働させるために時間を要したこと、また、焼酎の生産調整を行ったことなどから未達成となっている。焼酎かすは、商品(焼酎)製造の結果として発生する食品廃棄物であるため、また、メタン菌についても安定するまでに一定の時間を要するものであることからやむを得ない側面もある。今後は、施設も安定的な稼働が見込まれ、商品(焼酎)も例年どおりの生産が予定されており、目標の達成は見込まれると思われる。引き続き施設の有効活用に向けた取り組み状況を注視する必要がある。	「改善計画により改善」
鹿児島県	志布志市	志布志市	(有)サンケイ工業	新技術等の実証: 焼酎かす等の肥料化施設の整備	H20	焼酎かす処理量:10,000t/年 木くず処理量:1,680t/年 たい肥生産量:800t/年	1,489t/年 1,763t/年 0t/年	14.9% 104.9% 0.0%	個別成果指標については、3年後の計画目標値である、木くずの実績量は年次計画に達したが、焼酎かすの実績量は市場動向により減少した。次年度以降は、さらに利用率を向上させるため、契約酒造メーカー及び新規酒造メーカーからの協力を取り付けるなど取り組みを行い目標達成を図っていく。	本施設は、大隅地域で発生する焼酎かす及び木くずのバイオマス資源を活用し、たい肥化し資源循環を図る取組である。県としても、焼酎かすのリサイクルシステムを確立することとしており、先進的取組であると考えている。目標の達成については、3年後の目標であり、目標に対しては、未達成の項目があるが、ほぼ年次計画とおり推移しており、今後も契約酒造メーカー等との協力が計画されていることから、目標達成は見込まれる。	目標については、施設稼働から3年目を設定していることや焼酎かすは、商品(焼酎)製造の結果として発生する食品廃棄物であるため、やむを得ない側面もあるが未達成となっている。ただし、施設の有効活用に向けて関係企業との連携も予定されており、今年度以上の達成率になると考えられる。引き続き施設の有効活用に向けた取り組み状況を注視する必要がある。	「改善計画により改善」